白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年　作文の部　最優秀賞

「自分の夢を見つけるために」

松任小学校五年　大原（おおはら）　未愛（みな）

「あなたの夢は何？」ときかれても思いつかない。なぜなら何かになりたいと思ってもどうせ無理だと思う自分がいたり、また「やっぱりこれになろうかな？こっちにしようかな？まだ先のことだから別にいいや」と思う自分がいるからだ。しょう来なんてまだまだ遠い先のことだから、もっと先の自分が決めればいいと思ってしまう。でも先のばしにしていたら、一生夢なんて決まらないとあせる気持ちもあるが、そうはかん単には決められない。人生一度きりで正解も失敗もしょう来のことはまだ分からないし、何になったら、どういう仕事をしたら自分は楽しい人生をすごせるかわからないからだ。でもなやみすぎたら今生きている時間が楽しくないし…と頭の中でもやもやしている。

昔もしょう来の夢はなかったのかときかれたら「あった。」と答える。例えば、学校の先生になりたいと思ったこともある。そのときは、しょう来先生になったときの苦労など知らなかったから、なりたいものになりたいと単じゅんに言えた。でも今はユーチューブやテレビをみると、この仕事にいざつくとすごく大変なんだなということがわかった。それに、みんなみえないところでたくさんの努力をしていることや、その仕事につきたくて全力でがんばっていることもわかった。どんなにかこくな道でも大変でもがんばっている。そう思うとこの世の中、「かっこいい」や「楽しそうだな」「もしなれるなら…」という軽い気持ちで仕事を選んではいけなくて、きちんと「なる！」という決意を持って仕事を選び、取り組まなければならないと思った。だから今は何になりたいとかん単に言えない自分がいる。

しかし実際にその仕事についてみないと分からないと思う自分もいる。なぜならこの仕事ならかん単にできるかもしれないと思って始めても、予想以上にむずかしかったり、逆に大変そうだなと思った仕事が思った以上に楽しいかもしれない。また単じゅんな理由で仕事を選んだ人でも、今楽しく働いているという場合もあるかもしれない。だからしょう来の仕事について考えすぎず、行動しながら考えていくことが大切なのではないかと思った。

またわたしは行動する前や、何かをしていると中で失敗やまちがいをおかすと、「自分には無理だ」「自分にはできないのではないか」と不安に思ってしまうことがよくある。でも実際にはうまくいき、不安が外れることも多い。だから最初から無理だ、できないとは思わずに、いろいろと行動を起こすことが大切なのではないかと思う。これからは、自分には無理だとすぐにあきらめないようにがんばりたいと思う。

今は、ひそかにモデルになろうかなと思っている。どうしてなろうと思ったかというと、わたしは背が高いので友達のお母さんからよく「モデルになったら？」とすすめられたので、そう思い始めた。この先、モデルになろうと強く決意するかもしれないし、違う夢に変わるかもしれない。思いが変わったとしても悪いことではないと思う。自分が生きていくうちにだんだんと考えややりたいことは変わっていくと思うからだ。

いろいろな「夢」や「やりたいこと」に出会うためにも、これからは何かきょう味のあることや楽しいなと思うことを見つけたら頭で考えてまよったりせずに、積極的に挑戦しまずは行動にうつしていきたい。そうする中でこんなことをやってみたいな、この仕事につきたいなと思うときがきたら、どうやったらそうなれるかを考えて、実際になれるようにがんばっていきたいと思う。そして行動してみて自分にはむずかしすぎるなと思ったり、自分には本当にこれがあっているのかなとまよったら、もう一度考えてみてそれ以外のやってみたいことをみつけていきたい。そうする中で自分が本当にやりたいというものに出会えたら、それこそが本当になりたい仕事であり、自分の夢がみつかったということなのかもしれない。

どんなしょう来にするかは自分で決めたい。それが明るい未来かそ

うではないかはわからないけれど、自分で受け入れながら自分で行動しながら決めていきたい。そして今は生きている今の時間を楽しむことを大切に、自分がやりたいことやきょう味のあることをたくさん見つけていきながら、しょう来のことについてはあせらずに考えていけばいいと思う。

